

令和6年度(令和5年度実施事業分)主要事業評価シート						No.	10-2	
PDCA	主要事業名	防犯活動事業	部課名	総務部防災安全課	担当 内線	神谷 286		
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 4 - 1 - 3 単位施策： 生活安全 全体事業期間： 令和 5 年度 ～ 5 年度 全体事業費等： 1,472 千円 会計 一般 歳出科目： 02.01.10.02.01						目標項目（予算計上時に作成） 予算見積書で活用	
	事業概要等	事業概要： 「半田市安全なまちづくり条例」に基づき、地域団体や警察、学校、企業等と連携した防犯啓発活動や、市民が気軽に参加することのできる防犯活動への参加促進に努め、「安心・安全なまちづくり」の推進を図る。						
		事業目的： 市民が安心して暮らせるよう「安心・安全なまちづくり」を推進し、犯罪の未然防止のため、市民全体の防犯意識の向上を図る。						
		事業内容： 防犯協会委員会の開催、関係団体と連携した防犯啓発活動、市民が行う防犯活動の周知及び援助支援						
		問題点・ 刑法犯認知件数は減少しているが、住宅対象侵入盗や自転車盗、特殊詐欺被害等： 害は継続的課題である。						
	予算額	主要事業とする理由						
	1,472 千円	安心安全な半田市を形成するために、行政、関係団体、市民が一体となった防犯活動事業は必要不可欠であるため。						
	財源内訳	得られる成果						
	市費 1,472 千円 国費 0 千円 県費 0 千円 その他 0 千円	地域団体や学校、企業、市民の方が防犯活動を主体的に取り組んでいくとともに、行政や半田警察と連携・協働することによりまち全体の防犯意識が高まる。						
	目標値や目指すべき状態		令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位		
市内刑法犯発生件数	実績値	431	470	—	件			
	目標値	447	406	406	件			
	実績値							
	目標値							
	実績値							
	目標値							
D 実績値と得られた成果	決算額	得られた成果						
	1,455 千円	警察と連携して防犯啓発活動を行ったことや、防犯教室の開催、自主防犯団体への活動支援により市民の防犯意識を高めることができた。						
		成果指標						
			令和5年度	単位				
	市内刑法犯発生件数	実績値	616	件				
		目標値	406	件				
C 課題の整理	事業の評価・課題	C 一部地域での商店街照明灯撤去に伴い防犯灯を14灯設置し、明るさを確保することで、地域の治安維持に寄与した。また、防犯教室や自動車ナンバープレート盗難防止ネジ取付キャンペーンなどを行ったが、半導体の不足、物価高騰に伴う車両価格高騰を主因とする車両、車両関連機器の盗難は県下増加傾向にあり、市内刑法犯発生件数も616件と前年比増加となったため、他市事例を参考に市内全域に防犯カメラと啓発看板を設置できるよう計画した。特に自転車盗は多く発生しており、警察と協働し盗難防止札を試験的に約6か月間放置自転車業務に取り入れた。また、駐輪場看板の更新を行うことで放置自転車削減を図り、駅駐輪場付近での犯罪が発生しにくい環境づくりに努めた。さらに、警察や他団体との協働事業として高校生とアルバイト加担防止の動画作成・放映や護身術の講義、防犯少年団と立哨活動や青パト巡回等を実施した。						
		改善推進 半田警察署との連携、情報共有を密にし、効果的な防犯啓発に取り組む。自転車盗に対して、多くの盗難車が無施錠であるため、駐輪車両に対する施錠の習慣化に向けた啓発運動を強化する。また、市内全域に防犯カメラ130台新設と啓発看板2,000枚の設置を行うことで犯罪抑止及び市民の体感治安や防犯意識の向上を図り、犯罪が発生しにくい環境づくりに努める。また、特殊詐欺被害やアルバイトへの加担も増加傾向にあるため、警察や中学生と協働し被害防止啓発を目的とした事業を行う。その他、地域の防犯活動の更なる効果向上を目指し、ホームページやFAX等を用いた不審者情報の提供や、研修会開催、地域団体等との連携による啓発活動を行い、市民の防犯意識の一層の向上に努める。						
A 課題の解決に向けた	今後の事業の方向性							
	観点別評価	必要性	有効性		効率性			
		①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献 中程度		⑦コスト削減 減余地 ない			
		②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地 ある		⑧受益者負担適正化余地 ない			
	③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無 ある						

評価項目（決算時に作成）

主要施策の成果報告書で活用